



億万長者の深層心理を解き明かせ！

金持ち脳を手に入れる 27 の教訓



お金を引き寄せる考え方



35歳で資産**1億円**を築く「お金の講義」
知っておくとク！無料で学べるお金の増やし方！



はじめに

あなたはお金持ちになりたいですか？

良く目にする話題ですよ。色々なメディアで登場する話題なので「もう、うんざり」とか「何か胡散臭い話じゃないの？」と思われる方も多いと思います。今回、私がお話するのは「ビジネスの話」ではありません。ましてや「金儲け」などといった類の話でもありませんから安心して下さい。きっと役に立つ話ですから最後までお付き合い下さい。

最近、テレビや書籍で脳科学者の先生を見かける機会が多くなりました。

また、メンタリストと呼ばれる方が話題になり、テレビで引っ張りだこですよ。皆さんが共通して言われること、それは・・・

「深層心理がどれだけ行動に影響するか」

ということです。人間は「経済活動を行う唯一の動物」ですから、深層心理が「豊かさや貧困」に直結した原因であることは疑いようもない事実です。現在の自分が貧乏だと思うならば、「あなたの深層心理が本来得られるはずのお金を失わせている危険がある」ということです。

これから先、お金が自然と増えていく「金持ち脳」を手に入れていただくために「27の教訓」をご紹介します。分かり易くするため、「金持ち脳」と「貧乏脳」として考え方を対比させています。自分が「貧乏脳」的な考え方に陥っていないかチェックし、「金持ち脳」へスイッチしましょう。また、最後のページに「金持ち脳を手に入れる 27 の教訓」をまとめましたので、ぜひ印刷してよく目にする場所へ貼っておきましょう。きっと「お金を引き寄せる自分」へ変わっていくはずですよ。





🌟〈教訓その1〉

「貧乏脳」は稼ぐことを卑しいと考える。

「金持ち脳」は稼ぐことを尊いと考える。

まず、お金持ちになる人は「稼ぐこと」を尊いと考えます。なぜなら、人や社会に貢献した結果、お金がついてくると考えるからです。一方、(多くの) 貧乏になる人はお金に対する間違った教育、そして認識のために「お金を稼ぐことが卑しいことだ」と考えがちです。卑しいことに対して積極的、そして前向きに取り組む人はいませんよね。

🌟〈教訓その2〉

「貧乏脳」は金持ちが特別な人だと考える。

「金持ち脳」は誰でも金持ちになれると考える。

貧乏になる人は「特別な奴しか金持ちになれない」と考えています。一方で、特別な人しか当たらないはずの宝くじをせっせと購入します。金持ちになる人は「アイデアと勤勉性、社会性を持って働けば誰でも金持ちになれる」と考えます。そして社会性を持った仕事をするため、社会から何倍もの報酬を手に入れます。

🌟〈教訓その3〉

「貧乏脳」は貧乏が社会のせいだと批判する。

「金持ち脳」は裕福さが社会のお蔭と感謝する。

貧乏になる人は社会が「金持ち」に特別な利益を与え、自分には「与えてくれない」と批判します。金持ちになる人は自分の仕事が社会的に貢献し、社会から報酬を受け取っている実感があります。よって、「裕福なのは社会のお蔭だ」と感謝できるし、更なる貢献を目指して働くことができます。





 〈教訓その4〉

「貧乏脳」は悲観的に物事を捉えることを好む。

「金持ち脳」は楽観的に物事を捉えることを好む。

例えば、大きなビジネスチャンスがあったとします。取引相手からしばらくの間連絡が途絶えました。貧乏になる人は悲観的に捉え、「もうだめだ。」と考えます。一方、金持ちになる人は「もうすぐ連絡がくるだろう。」と楽観的に捉えます。多くの脳心理学実験により楽観主義が経済的な成功をもたらすことが実証されています。また、楽観主義は多くの人脈を呼び、ビジネスに成功をもたらします。

 〈教訓その5〉

「貧乏脳」は「金持ちが富を独占する」と考える。

「金持ち脳」は「大勢が富を得るように」と考える。

貧乏になる人は「金持ちが富を独占するから貧乏人が増えるんだ」と考えがちです。しかし、実態はどうでしょう？多くの成功した企業家はビジネスパートナーや有望な若者の成功を後押ししています。それは、自分のビジネスが「沢山の人の上で成り立っている」ことを知っているからです。

 〈教訓その6〉

「貧乏脳」は時間で稼ぐことを考える。

「金持ち脳」はアイデアで稼ぐことを考える。

貧乏脳は時間がお金に直結していると考えがちです。例えば、「時給〇〇円」といった考えが典型的ですね。私たちが「使える時間」は限られていますから稼げる金額も限られるわけです。時給が50円アップしたところで金持ちにはなれません。一方、アイデアで稼ぐことを考えれば得られる「お金」は無限大です。多くの実業家が「どのようにして稼いだか？」を見れば一目瞭然ですね。





 〈教訓その7〉

「貧乏脳」は自分の苦労話や失敗談を好む。

「金持ち脳」は自分の成功例を話したがる。

成功者は「成功する喜び」を良く知っていますから他人にも「成功例」を話したがります。そして、その喜びに共感した人が新たな成功を呼びます。成功できない人、失敗を重ねる人は他人に「なぜ成功しなかったか」という言い訳めいた話をしたがります。そんな人にわざわざチャンスを与える人などいませんよね。

 〈教訓その8〉

「貧乏脳」はお金に絶望を感じる。

「金持ち脳」はお金に希望を感じる。

お金を稼げない人、生活に不安のある人は常にお金に対して絶望的なイメージを持っています。一方、お金を稼げる、または裕福な人はお金がどれほど人生を豊かにして幸福を招くか知っています。この「希望」が活力を生み、ビジネスチャンスや儲けのアイデアを生み出すのです。

 〈教訓その9〉

「貧乏脳」はスキルアップを組織の為と考える。

「金持ち脳」はスキルアップを自分の為と考える。

組織・企業の中にあっても成功して稼ぐ人は考えがポジティブなのは当然です。仕事上のスキルアップは自分の社会的評価や収入アップ、そして新たなビジネスや独立などにも大いに役立ちます。スキルアップを組織の為と考えていたらモチベーションも上がりませんし、長期的にみても成功はありえません。





〈教訓その10〉

「貧乏脳」は過去を振り返ることを好む。

「金持ち脳」は将来について語ることを好む。

貧乏になる人はよく、「昔は良かった」と感慨深げに語ります。裏を返せば昔よりも生活の質や幸福の度合いが低下しているということ。このような人は「良くなるための話」もしたがりません。一方、成功して金持ちになる人は将来について語りたがりです。だからビジネスでもプライベートでもアイデアが湧いてくるし、毎日活力が溢れているのです。

〈教訓その11〉

「貧乏脳」は好きではない仕事でお金を稼ぐ。

「金持ち脳」は好きな仕事でお金を稼ぐ。

お金持ちの大半は「好きな仕事」でお金を稼いでいます。サラリーマンだった方が好きな仕事で独立、成功を収めるケースを見れば分かります。好きな仕事なら「困難」が生じても前向きに乗り切れるのは当然の理です。また、次々とアイデアが湧いてきたり、ビジネスチャンスも広がるわけです。一方、大半の人は「好きではない仕事」を生活のために継続しているのが実情です。

〈教訓その12〉

「貧乏脳」はお金は減っていくものと考えます。

「金持ち脳」はお金は増えていくものと考えます。

良く「貧乏性」という言葉を聞きますよね。これは、稼ぐことに限界を感じているから出てくる言葉です。また、お金が底をつく恐怖から生まれる言葉でもあります。一方、お金を稼ぐ術を知っている人は「使った分以上に稼げる自信」があるために、お金は増えていくものと考えます。





 〈教訓その13〉

「貧乏脳」は学歴がお金を生むと考える。

「金持ち脳」は経験がお金を生むと考える。

お金持ちになる人はアイデア豊富な場合が多いです。そしてアイデアをお金に結び付けるための知識や経験を積み重ねるのも大好きです。一方、学歴に固執しすぎる人は自分の境遇を学歴のせいにして、学歴にあぐらをかいて努力や謙虚さを欠く場合も多いようです。これでは経済面だけでなく、人間的にも進歩は望めません。

 〈教訓その14〉

「貧乏脳」は鉄壁の守備を重視する。

「金持ち脳」は大胆な攻撃を重視する。

常に貧困を意識している人は何事にも鉄壁の守備を重視します。お金が逃げるものと考えからず。一方、お金を稼ぐ人は守備も意識しつつ、チャンスには大胆な攻撃を見せてチャンスをつかみます。スポーツに例えてみても、守備固めだけで勝てるスポーツはありませんよね？

 〈教訓その15〉

「貧乏脳」は脱サラをリスクと捉える。

「金持ち脳」は脱サラをチャンスと捉える。

いわゆる脱サラで成功した人は皆、事業を起こすことがチャンスだと考えてきた人です。チャンスだから情熱を持って事業に取り組み成功したわけです。脱サラをリスクと捉える人（多くの場合そうですが）が成功する確率は低いです。リスクに情熱を傾け、投資するなんて難しいですからね。





 〈教訓その16〉

「貧乏脳」は生活費のために働く。

「金持ち脳」はやりがいのために働く。

貧乏になる人は生活費のために・・・という想いで働きます。もし、会社の業績が悪化して収入が下がればモチベーションの維持が大変ですね。お金持ちになる人は「お金」より先に「やりがい」のために働きます。だからモチベーションが下がることはないですし、結果として「お金」を生むのです。

 〈教訓その17〉

「貧乏脳」は小さな幸福を夢見る。

「金持ち脳」は大きな幸福を夢見る。

お金持ちになる人の共通点として「大きな夢を抱く」という点があります。なぜなら、抱いた夢よりも大きな幸運が訪れることはないからです。一方、貧乏になる人は小さな夢を抱く場合がほとんどです。「夢は実現しないもの」と捉え、実現しなかった時の落胆が小さいからです。

 〈教訓その18〉

「貧乏脳」は金持ちを嫉妬の対象とする。

「金持ち脳」は金持ちを尊敬の対象とする。

お金持ちになる人は「金持ち」に対して尊敬の念を抱いています。その勤勉性や哲学、人生観が富を生み、そして社会に貢献している事実を知ってるからです。貧乏になる人は「金持ち」が幸運や才能だけで富を生んだと考えがちです。よって金持ちには嫉妬をするだけで学ぼうとしません。





 〈教訓その19〉

「貧乏脳」は他人をライバルや敵と考える。

「金持ち脳」は他人を協力者や仲間と考える。

ビジネスや社会生活において他人との関わり方は大きな分岐点となります。他人をライバルや敵と考える人は永久に「人がもたらすチャンス」を手にはすることはできません。お金持ちになる人は「人がもたらすチャンス」をフル活用し、感謝を忘れません。つまり他人は協力者、仲間なのです。

 〈教訓その20〉

「貧乏脳」は数年後のビジョンを描けない。

「金持ち脳」は長期的なビジョンの元に行動する。

お金持ちになる人は長期的なビジョンを持ち、その過程もしっかりと計画したうえで行動します。富を築く過程が人生そのものになるわけです。一方、貧乏になる人は場当たりの生活を送ったり、計画性のない行動で人生を浪費する傾向があります。

 〈教訓その21〉

「貧乏脳」は自己啓発費用を「経費」と考える。

「金持ち脳」は自己啓発費用を「投資」と考える。

お金を稼ぐ人は自己啓発の費用が将来「何倍にも大きくなってかえってくる」ことを知っています。そのため、自己啓発の費用は投資であると考え、出費を惜しみません。一方、稼げない人は自己啓発が短期間で成果をあげない為に経費と考え、出費することを好みません。





 〈教訓その25〉

「貧乏脳」は「自分には無理」と考える。

「金持ち脳」は「自分にしかできない」と考える。

お金を稼げない人はビジネスチャンスがあっても「自分には無理」と考えて手を引きます。当然、お金も生みませんし、相手の信用も得られません。一方、お金を稼ぐ人は何事にも果敢にチャレンジします。チャレンジにより苦勞することがあっても、経験という大きな財産が手に入るわけです。

 〈教訓その26〉

「貧乏脳」は人に助けられることを好みます。

「金持ち脳」は自分で解決することを好みます。

貧乏になる人は困難に直面すると「助けられること」を待って自ら解決しようとしません。結果として何の経験、スキルも身につかずお金を得られません。金持ちになる人は何事も「自分で解決すること」を考えます。結果として常に経験、スキルを向上させて大きなお金を手に入れます。

 〈教訓その27〉

「貧乏脳」はお金がネガティブな存在だと教育します。

「金持ち脳」はお金がポジティブな存在だと教育します。

貧乏になる人はお金がネガティブで汚く、エゴの塊であるかのような教育を受けてきた場合が多いです。そして自分の子孫にも同様の教育を行います。一方でお金持ちになる人はお金が尊く、ポジティブな存在であると教育されてきた場合が多いです。そして、お金の価値やお金を稼ぐプロセスの大切さを良く知っているため、子孫にも同様の教育を施していくわけです。





おわりに

いかがでしたか？

自分自身が「貧乏脳的な考え方」に陥っていませんでしたか？

もし、陥っていたならば時間をかけてでも

「金持ち脳的な考え方」にシフトして下さい。

きっと、あなたの人生にとってプラスになるはずです。

尚、巻末に「金持ち脳を手に入れる 27 の教訓」をまとめました。

ぜひ印刷してよく目にする場所へ貼って役立てましょう。





「金持ち脳を手に入れる 27 の教訓」

〈教訓その1〉

「貧乏脳」は稼ぐことを卑しいと考える。「金持ち脳」は稼ぐことを尊いと考える。

〈教訓その2〉

「貧乏脳」は金持ちが特別な人だと考える。「金持ち脳」は誰でも金持ちになれると考える。

〈教訓その3〉

「貧乏脳」は貧乏が社会のせいだと批判する。「金持ち脳」は裕福さが社会のお蔭と感謝する。

〈教訓その4〉

「貧乏脳」は悲観的に物事を捉えることを好む。「金持ち脳」は楽観的に物事を捉えることを好む。

〈教訓その5〉

「貧乏脳」は「金持ちが富を独占する」と考える。「金持ち脳」は「大勢が富を得るように」と考える。

〈教訓その6〉

「貧乏脳」は時間で稼ぐことを考える。「金持ち脳」はアイデアで稼ぐことを考える。

〈教訓その7〉

「貧乏脳」は自分の苦勞話や失敗談を好む。「金持ち脳」は自分の成功例を話したがる。

〈教訓その8〉

「貧乏脳」はお金に絶望を感じる。「金持ち脳」はお金に希望を感じる。

〈教訓その9〉

「貧乏脳」はスキルアップを組織の為と考える。「金持ち脳」はスキルアップを自分の為と考える。

〈教訓その10〉

「貧乏脳」は過去を振り返ることを好む。「金持ち脳」は将来について語ることを好む。

〈教訓その11〉

「貧乏脳」は好きではない仕事でお金を稼ぐ。「金持ち脳」は好きな仕事でお金を稼ぐ。

〈教訓その12〉

「貧乏脳」はお金は減っていくものと考え、「金持ち脳」はお金は増えていくものと考え。

〈教訓その13〉

「貧乏脳」は学歴がお金を生むと考える。「金持ち脳」は経験がお金を生むと考える。

〈教訓その14〉

「貧乏脳」は鉄壁の守備を重視する。「金持ち脳」は大胆な攻撃を重視する。





「金持ち脳を手に入れる 27 の教訓」

〈教訓その 15〉

「貧乏脳」は脱サラをリスクと捉える。「金持ち脳」は脱サラをチャンスと捉える。

〈教訓その 16〉

「貧乏脳」は生活費のために働く。「金持ち脳」はやりがいのために働く。

〈教訓その 17〉

「貧乏脳」は小さな幸福を夢見る。「金持ち脳」は大きな幸福を夢見る。

〈教訓その 18〉

「貧乏脳」は金持ちを嫉妬の対象とする。「金持ち脳」は金持ちを尊敬の対象とする。

〈教訓その 19〉

「貧乏脳」は他人をライバルや敵と考える。「金持ち脳」は他人を協力者や仲間と考える。

〈教訓その 20〉

「貧乏脳」は数年後のビジョンを描けない。「金持ち脳」は長期的なビジョンの元に行動する。

〈教訓その 21〉

「貧乏脳」は自己啓発費用を「経費」と考える。「金持ち脳」は自己啓発費用を「投資」と考える。

〈教訓その 22〉

「貧乏脳」は「お金があれば・・・」と考える。「金持ち脳」は「お金があっても・・・」と考える。

〈教訓その 23〉

「貧乏脳」はすぐ成果の出るビジネスを好む。「金持ち脳」は長期的に持続するビジネスを好む。

〈教訓その 24〉

「貧乏脳」は「仕事のし過ぎ」を後悔する。「金持ち脳」は「遊び過ぎても」後悔しない。

〈教訓その 25〉

「貧乏脳」は「自分には無理」と考える。「金持ち脳」は「自分にしかできない」と考える。

〈教訓その 26〉

「貧乏脳」は人に助けられることを好みます。「金持ち脳」は自分で解決することを好みます。

〈教訓その 27〉

「貧乏脳」はお金がネガティブな存在だと教育します。

「金持ち脳」はお金がポジティブな存在だと教育します。

